

「水土を守る人々」では、農業や農業用水の役割とこれらが持つ多面的機能等が十全に発揮されていくために、農業水利施設等の維持管理を支える人々の日常にスポットを当てて、その取り組みを紹介することで、農業農村整備や多面的機能の発揮が「人」の支えの上に成り立っていることを伝えていきます。
※不定期で掲載いたします。

「多面的機能支払制度を活用し地域全体を活性化」

～ ^{かべひがし}鴨部東活動組織 岡野 勲 氏 ～ 香川県さぬき市

香川県東部、さぬき市（旧志度町）に位置する鴨部東地区は、西部を流れる鴨部川の右岸に拓けた農村地域である。農業用水は多くの小規模ため池や鴨部川、隣接する津田町を流れる津田川から取水しているが、水量には恵まれていなかった。

同地区は、昭和58年から10年をかけて県営ほ場整備事業を実施し、昭和56年から香川用水の導水とも相まって、現在は安定した農業用水が確保されている。

鴨部東活動組織は平成19年度の制度創設時から「農地・水・環境保全向上対策」に取り組み、現在の協定面積は77.04ha、構成員は農業者、水利組合、土地改良区、自治会、老人会、子供会で構成され、これら各種団体が連携して活動を展開し、地域農業の発展と環境保全に寄与している。



エコファーマー 岡野 勲さん

今回紹介する岡野勲さんは、同組織の創設時から組織の中心で活動されており、鴨部川、津田川、香川用水と3つの水利が絡む同地区の取りまとめ役の1人として、組織にとってなくてはならない人物である。

1. ため池の管理



各ため池で年2回の草刈りをします

「当地区は19箇所のため池と14機の送水ポンプがあり、各ため池で年2回の草刈りをしています。刈り取った雑草は、1箇所に集め1年程度かけて堆肥化し農地に還元します。また、毎年1箇所ずつため池の池干しをやっていきます。池干しの主な作業は、周囲の木の

伐採、外来魚の駆除、ヘドロの洗い流しです。」と岡野さんは話してくれた。

鴨部東地区も高齢化などにより、同組織で活動するまでは数十年も池干しをしていなかったという。「安定して農業用水を得られるようになってから、地域の誰もが池干しに対する関心が薄くなっていました。バルブをひねれば水が出るわけですから、必要性がなかったんですね。そのため、ため池に外来魚がたくさんいて、ヘドロが溜まっていることを誰も知りませんでした。当時の四国土改良調査管理事務所長さんにそのことを教えてもらい、多面的機能支払の制度ができたこともあって、じゃあ、やってみようかと。今ではやって良かったと思っています。」と当時を振り返った。



よく手入れされたため池(田中大池)

「この地区で初めて池干しした時は、大きなフナや鯉以外は全部ブラックバスやブルーギルで、小魚はいませんでした。」と外来魚の多さに驚いたという。「最近では、外来魚はいなくなり、本来の自然が戻ってきました。中には希少種も含まれていますよ。」と嬉しそうに話してくれた。

「池干しをはじめてから、地区全体の水の流れが分かるようになってきました。最初は誰も配水網がどうなっているか分かりませんでしたから、県や市などが持っていた当時の図面や実際の操作により水の流れを確認しました。今では、配水網を整理・理解したことが、施設の修理や点検に役立っています。」と話してくれた。

2. 水利施設の維持管理



修復作業は夜遅くまで続いた

今年一番大変だった作業を聞いてみると、「水漏れを起こした送水管の修復作業」とのことだった。「市道から水が噴き出ているとの連絡があり現場を見に行きました。水が噴き出したところは、ちょうど、ため池と香川用水のパイプが2本平行に通っているところで、どちらのパイプから漏水しているのか分かりませんでした。ため池と香川用水のバルブを交互に開け閉めし

たりして、ため池からのパイプが破損していることを特定するのに時間がかかりました。」と振り返った。

「送水管の修復作業を行うために業者と現地に行ったのですが、配水管は2 m以上深くにあり、水を止めるのにも時間がかかりました。また、径300mmの管は厚みがあって切断するのに苦労しました。朝8時から始めた修復作業が終わったのが、22時を過ぎていましたが作業を終えた充実感がありました。」とその苦労を語ってくれた。

3. 地域住民を巻き込んで様々な活動を展開

また、同組織は、地域住民を巻き込んだ様々な活動を展開している。その代表的な取組が「コスモスまつり」だ。「毎年10月下旬頃にコスモスまつりを志度ライオンズクラブさんと共に開催しています。開催の1週間前には地域をあげて一斉草刈りを行い、来場者に気持ちよく見ていただけるよう整備します。当日は、県内外から毎年3,000人の見物客が訪れます。」と笑顔で話してくれた。「コスモスまつりの時だけでなく一斉草刈りの時は、農業者だけでなく地主さんや自治会員など地域住民が160人余り参加します。ですから、午前中の作業だけできれいになりますよ。」と話してくれた。まつりの会場では香川県らしく毎年うどんが振る舞われるとのことだ。

その他の活動としては、地域の小学校の児童とともに「ふるさと生きもの調査」や、地域の「ゴミ拾い」などを定期的に行い、地域の環境保全に寄与している。活動を始めた当初は、水路に自転車や車が投棄されていたり、水路横の泥上げ場などにゴミがたくさん捨てられていたという。また、除草作業が行われていない道路沿いには木がたくさん生えており、視界が悪く交通事故が起こったこともあったそうだ。現在では、ゴミも少なくなっているとのことで、地域住民の意識も高くなってきている。こうした取組は、隣接する地区に徐



一斉草刈りの様子



コスモスまつりを楽しむ来場者



地元小学生との清掃活動

々に影響を与えてきているようで、自分たちも多面的機能支払制度を活用しようかという声も聞こえてきているとのことだ。

4. 終わりに



田中大池から鴨部東地区を望む

同地区の将来について伺うと、「農地はだんだんと集積されていくだろう。実際に5～6反の水田で稲を作っても、機械を購入すれば採算は取れない。だから、水田はたくさん作ってくれる方をお願いしていくという形で集積されると思う。その他は私がやっているような環境保全

型農業ですね。無農薬でお米を作って、野菜もできるだけ農薬を使わないで、規模を拡大しない。このふたつに、今後二極化されていくだろう。」と語ってくれた。

「農地集積されたときに課題となるのが施設の管理です。私たちの組織で大規模にやっている農業者は地区外も含めると約30haの水田を管理しています。ひとつの水田が約2反と仮定すると、おおよそ150枚の水田を管理するわけです。大規模農家の方だけでは草刈りや水管理だけでも大変です。その上、ため池やポンプ施設の管理もやれというのは無理でしょう。」と語ってくれた。

「香川県はため池も多く、パイプラインや水利施設が複雑に絡んでいるからね。地域みんなでこの財産を守っていかなければならないと思います。」と力強く語ってくれた。



天神池から鴨部東地区を望む

『お知らせ』

農山漁村文化協会から発売されているDVD『多面的機能支払支援シリーズNO. 2「機能診断と補修」編』でも、鴨部東活動組織の取組が紹介されています。

また、同組織の取組は、岡野さんのブログ「環境保全型農業の部屋ブログ」で詳しく紹介されています。ぜひご覧ください。

アドレス <http://farmer803.blog.fc2.com/blog-category-3.html>

【中国四国農政局農村振興部設計課・四国土地改良調査管理事務所】